

教育研究上の目的（神奈川大学大学院人間科学研究科規程より抜粋）

人間科学研究科

本研究科の博士前期課程は、人間科学の多様な分野における専門的かつ応用的思考や人間科学に関する専門知識及び技術を身に付け、現実的な問題解決能力を備えた高度な専門職業人として社会に貢献し得る、知性豊かな人材の育成を目的とする。

本研究科の博士後期課程は、博士前期課程が目的として掲げる人間科学的思考、専門知識及び技術をさらに向上させ、優れた創造的研究及び教育活動を行うことができ、多様な社会の要請に応じて社会の価値創造に貢献し得る知的人材の育成を目的とする。

人間科学専攻 人間科学研究領域 博士前期課程

応用実験心理学分野

感覚知覚・認知を中心とする人間行動に関して、専門的な人間科学的思考と技術を身につけ、安全・快適を軸に、「人」を主体とした環境設計、人工物の企画・立案等を担う専門職業人の育成を目的とする。

スポーツ健康科学分野

スポーツ健康科学に関する専門的な人間科学的思考と技術を身につけ、人の健康面での自己管理に対する時代的ニーズに即応すべく、スポーツの普及・振興において高度な専門知識を有する人材の育成を目的とする。

地域社会学分野

社会学の分野に関する専門的な人間科学的思考と技術を身につけ、地域社会の現状と諸問題に対する理論的・実践的理解を深め、地域社会をデザインし、そのあり方を提案し、その再生を推進できる専門職業人の育成を目的とする。

人間科学専攻 人間科学研究領域 博士後期課程

応用実験心理学分野

視認性向上のための環境整備、安全をキーワードとした作業環境における誤動作防止、環境適応支援のためのプログラムの標準化、生活空間の快適性の追求等、さらに高度で具体的な心理学的研究・教育を推進し、問題分析能力と解決のための技術を兼ね備えた自立した研究者、教育者または企業における企画・立案者等の高度な専門職業人の育成を目的とする。

スポーツ健康科学分野

スポーツの普及・振興の分野において自立した研究活動を推進する専門的知識と技術を涵養し、スポーツの社会構造に対応する新しい分野のリーダーとして研究者または高度な専門職業人の育成を目的とする。

地域社会学分野

現代日本の地域社会の現状と諸問題を熟知し問題点を明確化する高度な能力、その再生をデザインするための高度な技術を身につけた自立した研究者、教育者または企業における企画・立案者などの高度な専門職業人の育成を目的とする。

人間科学専攻 臨床心理学研究領域 博士前期課程

専門教育の中でも特に実習や演習を重視し、現場での実地体験を積み重ね、対処の方略を獲得し、共感と支援資質を陶冶する。密度の濃い個人指導を通じて心理臨床家、特に臨床心理士の育成を目的とする。

人間科学専攻 臨床心理学研究領域 博士後期課程

高度な研究能力と臨床力を涵養し、心理臨床分野における自立した研究者、また心理臨床家の指導者の育成を目的とする。

教育目標

人間科学専攻 博士前期課程

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、人間科学研究科人間科学専攻博士前期課程では、多様化する社会の多様な要請に応える能力、すなわち社会の価値創造に貢献し得る高度な専門職業人としての能力を育てることを目標としています。

現在、我が国は少子高齢社会を迎えて人口の減少期に入り、経済・社会も発展や成長を目指す段階から持続可能な社会を目指す成熟期に入ろうとしています。その中で社会をイノベートするには、既存の特定分野のスペシャリストが提供する既存の価値観や方法を超えた、学際的な視点から新しい価値観や方法論を提供する能力が必要です。

本課程では人間科学の分野に関する専門的な知識と能力、社会が求める研究を発見し追求できる研究力、新しい価値を提供するプロジェクトの企画力、運営力、管理能力を統合して、人と社会に対する柔軟で幅広い視野と主体的かつ総合的な判断力を持って、学際的な視点から社会に新しい価値を提案し、それを実現できる能力を身につけさせることを教育目標として定めます。

人間科学専攻 博士後期課程

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、人間科学研究科人間科学専攻博士後期課程では、人間科学の分野に関する博士として必要な高度な専門知識と専門能力を駆使して、多様な社会の要請に応じて社会の価値創造に貢献する能力を育てることを目指します。

現在、我が国は世界に先駆けて超少子高齢社会を迎えています。また、世界的に経済成長が停滞し、どのような政策や対策が適切なのか、人類史上にお手本がない困難な事態に直面していると言えます。その中では既存の価値観や方法では人間の幸福のあり方を提案できない事態が訪れることが予想されます。

本課程では博士号取得者に対して、既存の価値観や方法論による閉塞性を打破して、新しい人間の幸福のあり方、すなわち新しい価値観を社会に提供できるように、人と社会に対する柔軟で幅広い視野と、主体的かつ総合的に社会が求めることを課題として設定できる判断力、さらに研究活動を推進できる創造力とその成果を社会に周知し新しい世論形成の力となれる発信力を身につけさせることを教育目標として定めます。

人間科学専攻 人間科学研究領域 博士前期課程

本学の教育目標及び本領域の教育研究上の目的等を踏まえ、人間科学研究科人間科学専攻博士前期課程人間科学研究領域では、応用実験心理学、スポーツ健康科学、地域社会学の各分野において人間的思考と技術を身につけた専門職業人を育成することを、教育の最終の目標としています。

現在、我が国は少子高齢社会を迎えて人口の減少期に入り、経済・社会も発展や成長を目指す段階から持続可能な社会を目指す成熟期に入ろうとしています。その中で社会をイノベートするには、既存の特定分野のスペシャリストが提供する既存の価値観や方法を超えた、学際的な視点から新しい価値観や方法論を提供する能力が必要です。実験心理学、スポーツ健康科学、地域社会学の分野の専門職業人には多様化する社会の多様な要請に応じて、新しい価値観や方法論を提案し、提供する能力が求められています。

本課程では、3つの研究分野を体系的に学ぶことを通して、人間科学の分野に関する専門的な知識と能力、社会が求める研究を発見し追求できる研究力、新しい価値を提供するプロジェクトの企画力、運営力、管理能力を涵養することを教育目標として定めます。

人間科学専攻 人間科学研究領域 博士後期課程

本学の教育目標及び本領域の教育研究上の目的等を踏まえ、人間科学研究科人間科学専攻博士後期課程人間科学研究領域では、応用実験心理学、スポーツ健康科学、地域社会学の各分野において高度な専門知識と技術を身につけた研究者や高度専門職業人を育成することを、教育の最終の目標としています。

現在、我が国は世界に先駆けて超少子高齢社会を迎えています。また、世界的に経済成長が停滞し、どのような政策や対策が適切なのか、人類史上にお手本がない困難な事態に直面していると言えます。その中では既存の価値観や方法では人間の幸福のあり方を提案できない事態が訪れることが予想されます。その中で、これらの分野の研究者や高度専門職業人には、現状の閉塞感を打破して、新しい価値観や方法論を社会に提供できる正しい知識や専門的な能力が求められています。

本課程では博士号取得者に対して、当該分野に関する博士として必要な高度な専門知識と専門能力、及び主体的かつ総合的に社会が求めることを課題として設定できる判断力、さらに研究活動を推進できる創造力とその成果を社会に周

知し新しい世論形成の力となれる発信力を駆使して、多様な社会の要請に応えて社会の価値創造に貢献する能力を育てることを教育目標として定めます。

人間科学専攻 臨床心理学研究領域 博士前期課程

本学の教育目標及び本領域の教育研究上の目的等を踏まえ、人間科学研究科人間科学専攻博士前期課程臨床心理学研究領域では心理臨床家、特に臨床心理士を育成することを、教育の最終の目標としています。

現在、我が国の企業はグローバルな経済競争に晒され、1990年代まで続いた経済の高度成長期に形成されていた終身雇用制、年功序列の昇進及び昇給の体系が見直される時代に入り、国民は生活者・労働者としてのあり方を見直すように求められています。この急激な変化の中で考え方の変化を求められ、その戸惑いの中で深い困惑や心理的な問題に悩む人々が増えています。このような状況では欧米から輸入してきた既存の臨床心理学では対応困難なことが予想され、心理臨床家は時代の動きの中で心がどのように動くのか、どのような支援を行えば心と行動が安定化に向かうのか、適切に見極め高度な専門性が求められています。

本課程では、偏りのない臨床心理学及び周辺分野の体系的な学修、学内及び学外専門機関実習経験、現代の我が国で求められている臨床心理学の基礎研究を通して、生活者・労働者としての人を深く理解・受容し、適切な支援を提供できる高度な専門性を育てることを教育目標として定めます。

人間科学専攻 臨床心理学研究領域 博士後期課程

本学の教育目標及び本領域の教育研究上の目的等を踏まえ、人間科学研究科人間科学専攻博士後期課程臨床心理学研究領域では、現代社会の臨床心理学的問題に対応できる新しい心理臨床を提案できる指導者レベルの心理臨床家の輩出を教育の最終の目標としています。

現在、我が国の企業はグローバルな経済競争に晒され、1990年代まで続いた経済の高度成長期に形成されていた終身雇用制、年功序列の昇進及び昇給の体系が見直される時代に入り、国民は生活者・労働者としてのあり方を見直すように求められています。この急激な変化への戸惑いから心理的な問題に悩む人々が増えています。また、急激な少子高齢社会の展開によって、高齢者、若年者及び現役世代の社会における役割や位置づけが変わる中で、国民全体が戸惑いを禁じ得ない状況もあります。このような状況に対応するべく、臨床心理学は常に時代の動きを読み、適切な支援を用意することが求められています。

本課程では時代のニーズに対応した臨床心理学研究を通して、現場の臨床心理士をイノベートし、生活者・労働者としての人を深く理解・受容し、次世代の臨床心理学をリードする高度な専門性を育てることを教育目標として定めます。

研究科・専攻の基本方針（3つのポリシー）

人間科学研究科 人間科学専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士前期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、修士（人間科学）の学位が授与されます。

1. 人と社会に対する柔軟で幅広い視野と、主体的かつ総合的な判断力
2. 人間科学の分野に関する修士として必要な専門知識
3. 問題を的確に把握し説明する能力と技術力
4. 企画力、公表力、自立力に加え、実践的に課題解決策を提案できる専門職業人としての能力

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科博士前期課程では、人間科学のそれぞれの専門分野において、自立して研究活動を行うに足る研究能力を修得させることを目標として、その基盤となる豊かな学識を培う教育のうえに、自ら研究課題を設定し、研究活動を実施する等、学生の創造力や自立力を磨く教育を行うとともに、研究活動の企画や管理等の運営管理能力を高める教育を行うこととするため、以下のカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 社会の変化に対応し得る統合された知の基盤を与えるため、他の研究領域、他の専門分野の開講する講義科目を履修できるように柔軟なカリキュラムを設定している。
2. 各専門分野における問題を的確に把握し説明する能力と技術を身につけさせるため、「人間科学特別研究（演

- 習)」を必修とし、指導教授による指導を密にし、自主的に学ばせている。
3. 人間科学研究領域においては「人間科学事例研究」を必修とし、修士論文の課題を設定し修士論文を制作する前段階として文献研究、現場調査、学会発表等の研究指導を行うことにより理論的知識や能力を基礎として、実際にそれらを応用する能力と課題に対する柔軟な思考能力や深い洞察力に基づく主体的な行動力を身につけさせるとともに、実践的教育に力を入れている。
 4. 臨床心理学研究領域においては臨床実習科目群を必修とし、修士論文の課題を設定し修士論文を制作する前段階として文献研究、現場調査、学会発表等の研究指導を行うことにより理論的知識や能力を基礎として、実際にそれらを応用する能力と課題に対する柔軟な思考能力や深い洞察力に基づく主体的な行動力を身につけさせるとともに、実践的教育に力を入れている。
 5. TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意している。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

本研究科博士前期課程では、応用実験心理学、スポーツ健康科学、地域社会学、臨床心理学の各分野において、以下の学力や意欲を有する人を受入れます。

1. 人間及び人間社会に関する幅広い関心を有する人
2. 人間科学に関連する基礎学力を備えた人
3. 福祉や支援についての意欲を有し、それらを多角的・総合的に活用するための思考力と企画力を身につけることに意欲を有する人

人間科学研究科 人間科学専攻 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士後期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、博士(人間科学)の学位が授与されます。

1. 人と社会に対する柔軟で幅広い視野と、主体的かつ総合的な判断力
2. 人間科学の分野に関する博士として必要な高度な専門知識
3. 自立して研究課題を設定し、研究活動を推進できる創造力及び自立力
4. 研究活動を通じた企画・運営・管理能力
5. 多様な社会の要請に応じて社会の価値創造に貢献し得る高度な専門職業人としての能力

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科博士後期課程では、それぞれの専門分野において、研究者として自立できる幅広い高度な専門的知識と研究手法・研究遂行能力、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の育成を目的とするため、以下のカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 「人間科学特殊研究(演習)」を必修とし、後期課程の全年次において独創的な優れた研究を自立して遂行し、成果を公表する能力と技術を陶冶し、博士論文の完成へと導く。
2. 「文献研究」「企画研究」「課題研究」「実践研究」を各半期の演習と定めてこれを必修とし、段階的に高度な専門的研究の遂行を促し、研究及び教育を指導する能力と技術を実践的に体得させる。
3. 研究課題に関する文献(英語を中心とする学術論文、外国語書物等)の講読により先行研究に学び、問題を明確化するため、「文献研究」を必修とする。
4. 定めた研究課題に対する方法の選択、企画書作成等の実行、訓練を目的として、「企画研究」を必修とする。
5. 企画に沿って実験及び調査等によってデータを収集し、解析する能力を身につけさせるため、「課題研究」を必修とする。
6. 実践力を重視する観点から、他研究機関との研究交流及び研究課題との関連での現場視察、リサーチ、調査等の研究を目的として、「実践研究」を必修とする。
7. TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意している。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

本研究科博士後期課程では、応用実験心理学、スポーツ健康科学、地域社会学、臨床心理学の各分野において、以下の学力や意欲を有する人を受入れます。

1. 人間及び人間社会に関する幅広い関心を有する人
2. 人間科学に関連する高い学識と技術を有する人
3. 人間科学的思考、学識、技術を向上させ、すぐれた創造的研究や教育活動を行い、多様な社会の要請に応じて社会の価値創造に貢献することに対して強い意欲と資質を有している人

人間科学専攻 人間科学研究領域 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士前期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、人間科学専攻博士前期課程の学位授与の方針に掲げる能力に加え、各分野に求められる下記の能力を身につけていると判断され、修士（人間科学）の学位が授与されます。

応用実験心理学分野

1. 実験心理学の基礎分野及び応用分野に関する修士として必要な専門知識
2. 現実の生活を安全・安心・快適性を軸として解析し、問題を分析する能力及び技術力
3. 応用実験心理学分野における研究能力又は専門的職業を担うための卓越した能力

スポーツ健康科学分野

1. スポーツ健康科学分野の修士として必要な高度な専門知識
2. スポーツ健康科学の専門性に基づく分析力、技術力、および応用力
3. スポーツ健康科学分野における研究能力と専門的職業を担うための能力

地域社会学分野

1. 地域社会学分野に関する修士として必要な高度な専門知識
2. 現代社会の諸問題を的確に分析し、再生に向けてデザインする実践的能力
3. 地域社会学分野における研究能力又は専門的職業を担うための卓越した能力

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究領域博士前期課程では、人間科学のそれぞれの研究分野において、自立して研究活動を行うに足る研究能力を修得させることを目標として、その基盤となる豊かな学識を培う教育のうえに、自ら研究課題を設定し、研究活動を実施する等、学生の創造力や自立力を磨く教育を行うとともに、研究活動の企画や管理等の運営管理能力を高める教育を行うこととするため、以下のカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 社会の変化に対応し得る統合された知の基盤を与えるため、他の研究領域、他の専門分野の開講する講義科目を履修できるように柔軟なカリキュラムを設定している。
2. 各専門分野における問題を的確に把握し解明する能力と技術を身につけさせるため、「人間科学特別研究（演習）」を必修とし、指導教授による指導を密にし、自主的に学ばせている。
3. 人間科学研究領域においては「人間科学事例研究」を必修とし、修士論文の課題を設定し修士論文を制作する前段階として文献研究、現場調査、学会発表等の研究指導を行うことにより理論的知識や能力を基礎として、実際にそれらを活用する能力と課題に対する柔軟な思考能力や深い洞察力に基づく主体的な行動力を身につけさせるとともに、実践的教育に力を入れている。
4. TA（ティーチング・アシスタント）に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意している。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

本研究領域博士前期課程の応用実験心理学、スポーツ健康科学、地域社会学の各分野では、以下の学力及び意欲を有する人を受入れます。

1. 人間及び人間社会に関する幅広い関心を有する人

2. 人間科学に関連する基礎学力を備えた人
3. 福祉や支援についての意欲を有し、それらを多角的・総合的に活用するための思考力と企画力を身につけることに意欲を有する人

人間科学専攻 人間科学研究領域 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士後期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、人間科学専攻博士後期課程の学位授与の方針に掲げる能力に加え、各分野に求められる下記の能力を身につけていると判断され、博士（人間科学）の学位が授与されます。

応用実験心理学分野

1. 応用実験心理学分野に関する博士として必要な高度な専門知識
2. 現実の生活を安全・安心・快適性を軸として解析し、問題を分析する能力及び高度な技術力
3. 企業・官公庁の研究機関における研究、人間・環境系の視点からの人工物（道路、建物、機器等）の企画・立案、大学における教育・研究において貢献し得る能力

スポーツ健康科学分野

1. スポーツ健康科学分野の博士として必要な高度な専門知識
2. スポーツ健康科学の高度な専門性に基づく分析力、技術力、および応用力
3. スポーツ健康科学分野における高度な研究能力と専門的職業を担うための卓越した能力

地域社会学分野

1. 地域社会学分野に関する博士として必要な高度な専門知識
2. 現代社会の諸問題を的確に分析し、再生に向けてデザインする実践的能力
3. 地域社会学分野における研究能力又は専門的職業を担うための卓越した能力

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究領域博士後期課程では、人間科学のそれぞれの専門分野において、研究者として自立できる幅広い高度な専門的知識と研究手法・研究遂行能力、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の育成を目的とするため、以下のカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 「人間科学特殊研究（演習）」を必修とし、後期課程の全年次において独創的な優れた研究を自立して遂行し、成果を公表する能力と技術を陶冶し、博士論文の完成へと導く。
2. 「文献研究」「企画研究」「課題研究」「実践研究」を各半期の演習と定めてこれを必修とし、段階的に高度な専門的研究の遂行を促し、研究及び教育を指導する能力と技術を実践的に体得させる。
3. 研究課題に関する文献（英語を中心とする学術論文、外国語書物等）の講読により先行研究に学び、問題を明確化するため、「文献研究」を必修とする。
4. 定めた研究課題に対する方法の選択、企画書作成等の実行、訓練を目的として、「企画研究」を必修とする。
5. 企画に沿って実験及び調査等によってデータを収集し、解析する能力を身につけさせるため、「課題研究」を必修とする。
6. 実践力を重視する観点から、他研究機関との研究交流及び研究課題との関連での現場視察、リサーチ、調査等の研究を目的として、「実践研究」を必修とする。
7. TA（ティーチング・アシスタント）に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意している。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

本研究領域博士後期課程の応用実験心理学、スポーツ健康科学、地域社会学の各分野では、以下の学力及び意欲を有する人を受入れます。

1. 人間及び人間社会に関する幅広い関心を有する人
2. 人間科学に関連する高い学識と技術を有する人

3. 人間科学的思考, 学識, 技術を向上させ, すぐれた創造的研究や教育活動を行い, 多様な社会の要請に応じて社会の価値創造に貢献することに対して強い意欲と資質を有している人

人間科学専攻 臨床心理学研究領域 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

本研究科博士前期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し, 提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は, 人間科学専攻博士前期課程の学位授与の方針に掲げる能力に加え, 臨床心理学分野に求められる下記の能力を身につけていると判断され, 修士(人間科学)の学位が授与されます。

1. 臨床心理学分野に関する専門知識
2. 柔軟で主体的な判断力
3. 人を深く理解し, 実践的に課題解決策を見いだすことのできる専門職業人としての能力
4. 臨床心理士としての可能性, 自覚と見識, その職務遂行のための理論と実践力

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

本研究領域博士前期課程では, 臨床心理学分野に関する専門知識に基づく主体的な判断力を持ち, 人を理解し, 実践的課題解決ができる専門職業人の能力を育成し, かつ臨床心理士受験資格取得のために, 以下のようなカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 「人間科学特別研究(演習)」を必修とし, 指導教授による指導を密にし, 修士論文の作成に向けて, 課題の設定, 文献研究, 現場調査, 学会発表等の研究指導を行っている。
2. 臨床心理学分野に関する基本的理解と幅広い視野を獲得できるよう, 臨床基本科目群, 選択科目群に分けて, 豊富な講義科目を設けている。
3. 臨床心理学研究領域においては臨床実習科目群を必修とし, 修士論文の課題を設定し修士論文を制作する前段階として文献研究, 現場調査, 学会発表等の研究指導を行うことにより理論的知識や能力を基礎として, 実際にそれらを応用する能力と課題に対する柔軟な思考能力や深い洞察力に基づく主体的な行動力を身につけさせるとともに, 実践的教育に力を入れている。
4. TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで, 教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意している。

アドミッション・ポリシー (入学者受入の方針)

本研究領域博士前期課程では, 以下の学力や意欲を有する人を受入れる。

1. 人間に関する深い関心を有する人
2. 臨床心理士受験資格取得を目指す学習を可能とする学部卒業同等の臨床心理学, 心理学, 関連科目の基礎知識が備わっており, 臨床心理士への意欲と関心を有している人

人間科学専攻 臨床心理学研究領域 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

本研究科博士後期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し, 提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は, 人間科学専攻博士後期課程の学位授与の方針に掲げる能力に加え, 各分野に求められる下記の能力を身につけていると判断され, 博士(人間科学)の学位が授与されます。

1. 臨床心理学分野に関する高度な専門知識
2. 柔軟で主体的な判断力
3. 人を深く理解し, 実践的に課題解決策を見いだすことのできる高度職業人としての能力
4. 臨床心理士としての実践力, 及び指導者又は自立した研究者として社会貢献できるための研究能力

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

本研究領域博士後期課程では, 臨床心理学分野に関する専門知識に基づく主体的な判断力を持ち, 人を理解し, 実践的課題解決ができる高度な専門職業人の能力を育成し, それぞれの実践領域における指導者又は研究者を目指すために, 以下のようなカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 「人間科学特殊研究（演習）」を必修とし、後期課程の全年次において独創的な優れた研究を自立して遂行し、成果を公表する能力と技術を陶冶し、博士論文の完成へと導く。
2. 「文献研究」「企画研究」「課題研究」「実践研究」を各半期の演習と定めてこれを必修とし、段階的に高度な専門的研究の遂行を促し、研究及び教育を指導する能力と技術を実践的に体得させる。
3. 研究課題に関する文献（英語を中心とする学術論文、外国語書物等）の講読により先行研究に学び、問題を明確化するため、「文献研究」を必修とする。
4. 定めた研究課題に対する方法の選択、企画書作成等の実行、訓練を目的として、「企画研究」を必修とする。
5. 企画に沿って実験及び調査等によってデータを収集し、解析する能力を身につけさせるため、「課題研究」を必修とする。
6. 実践力を重視する観点から、他研究機関との研究交流及び研究課題との関連での現場視察、リサーチ、調査等の研究を目的として、「実践研究」を必修とする。
7. TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意している。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

本研究領域博士後期課程では、以下の学力や意欲を有する人を受入れます。

1. 人間に関する深い関心と博士前期課程修了程度の学力、援助能力を有する人
2. 臨床心理士として、将来、それぞれの実践領域における指導者又は研究者を目指す学習を可能とする研究・実践能力と意欲を有している人

履修案内

本研究科は人間科学専攻1専攻のもと、人間科学研究領域と臨床心理学研究領域の2領域から構成されています。臨床心理学研究領域は臨床心理学分野の1分野からなり、人間科学研究領域は応用実験心理学分野、スポーツ産業分野、地域社会学分野の3分野を含みます。

博士前期課程においては、学部の学修で身につけた専門的な知識や能力を基礎として、実際にそれらを活用する力を磨き、人間理解に対する柔軟な思考能力や深い洞察力に基づく主体的な行動を身につけることができるよう、カリキュラムが編成されています。

両研究領域に共通の演習科目として人間科学特別研究があります。

人間科学特別研究は、入学時より2年間を通して一貫した演習形式の指導体制により、自己の研究課題の設定からはじめ、論文指導を繰り返しながら、修士論文の完成へとつなげていくことを目的とした必修科目です。

人間科学研究領域においては、3分野を中心とする人間科学分野の専門科目を体系的に学修するための導入総論科目として「人間科学特論」を、基礎的な研究手法や研究能力を修得するための科目として「人間科学研究法特論」を1年次に配置しています。

また、人間科学研究領域に共通の演習科目として「人間科学事例研究」を必修とし、2年次に配置しています。講義科目で修得した知識の有効性を具体的な事例を取り上げて考察することにより、問題発見や問題解決の方法を学ぶとともに、具体的な実践事例の分析や研究による総合的な課題学修を目的としています。

その上で、人間科学に関する各分野の基礎理論と実践理論を幅広く学ぶと共に、専門領域に関する知識を深め、問題解決の方法を学び、各自の研究テーマへと関連づけていく科目として以下の講義科目を配置しています。

応用実験心理学分野：感知情報心理学特論，色彩環境心理学特論，安全人間情報工学特論，
心理統計法特論，応用心理学特論，神経心理学特論，高齢者環境特論，認知障害特論
スポーツ健康科学：コーチング特論，生涯スポーツ健康特論，スポーツ社会学特論，運動処方特論，
生体機能特論，バイオメカニクス特論，スポーツ心理学特論，産業人間科学特論
地域社会学分野：地域社会学特論，地域調査法特論，社会統計法特論，現代社会特論，
環境科学特論，人間形成特論，社会教育特論

臨床心理学研究領域においては、臨床心理学の基礎的理解と臨床心理士の養成を目的として以下の講義、演習、実習による科目を配置しています。

臨床基本科目群：臨床心理学特論・臨床心理面接特論・臨床心理査定演習・

臨床実習科目群：臨床心理基礎実習・臨床心理実習・

その上で、さらに心理臨床に関する各領域の基礎理論と実践理論を幅広く学び、専門領域に関する知識を深め、問題解決の方法を学び、各自の研究テーマへと関連づけていく科目として以下のA群からE群の科目を配置しています。

A群：臨床心理学研究法特論，心理統計法特論
B群：人格心理学特論，発達心理学特論
C群：人間関係学特論，家族心理学特論
D群：精神医学特論，障害者心理学特論
E群：投影法特論，遊戯療法特論，産業臨床心理学特論，学校臨床心理学特論

各研究領域において開講する講義科目は、一部の制限を除き、専攻する領域や分野を越えて、自由に履修することができます。ただし、「臨床基本科目群」、「臨床実習科目群」及び「E群」の授業科目は、臨床心理学研究領域の学生のみ履修することができます。

博士後期課程においては、博士前期課程との接続を重視しつつ、それぞれの専門領域の研究者または実践の指導者として自立できるよう、一貫した体系的な教育課程を編成しています。

研究指導については、人間科学特殊研究を必修科目として配置することにより、入学時より3年間を通して一貫した研究指導を行い、学位論文の完成へと導きます。

そのほか、以下の演習科目を必修科目として、段階を踏んで学問を深めることができるよう配置しています。

第一段階 人間科学文献研究：高度な学術研究に豊富に接することにより、基盤となる豊かな知的学識を培う

第二段階 人間科学企画研究：研究活動における企画力や公表力、自立力などを磨く

第三段階 人間科学課題研究：自ら研究課題を設定し、研究活動を実施する

第四段階 人間科学実践研究：多様な研究活動の場を通じて研鑽を積む

学位請求論文の提出要件

博士論文提出要件として、査読付学術論文誌に1編以上筆頭論文が受理されていること。

学修の流れ

博士前期課程 学修の流れ

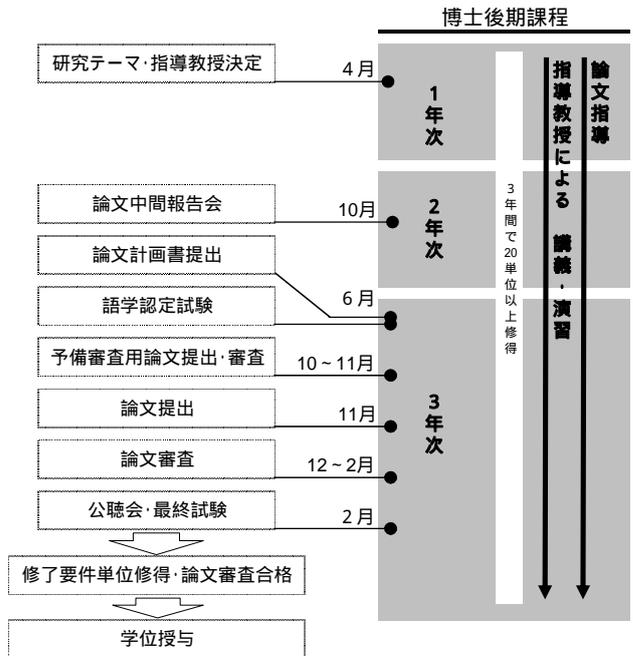
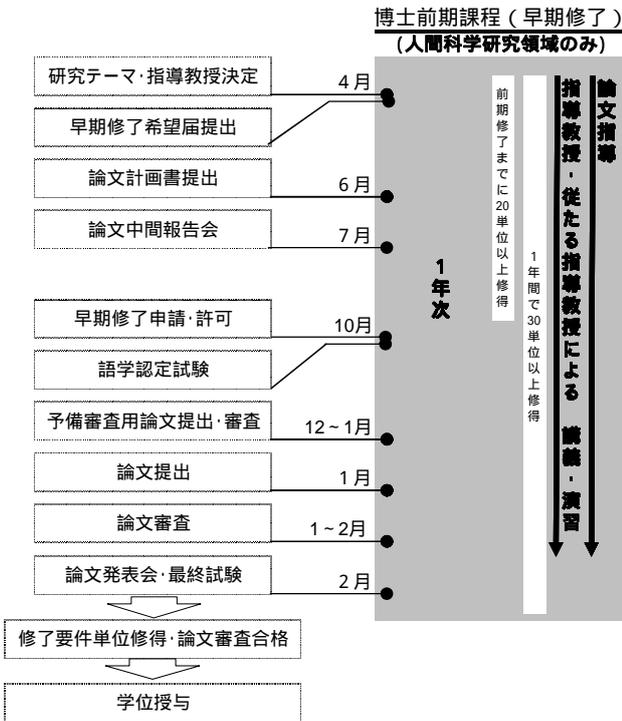
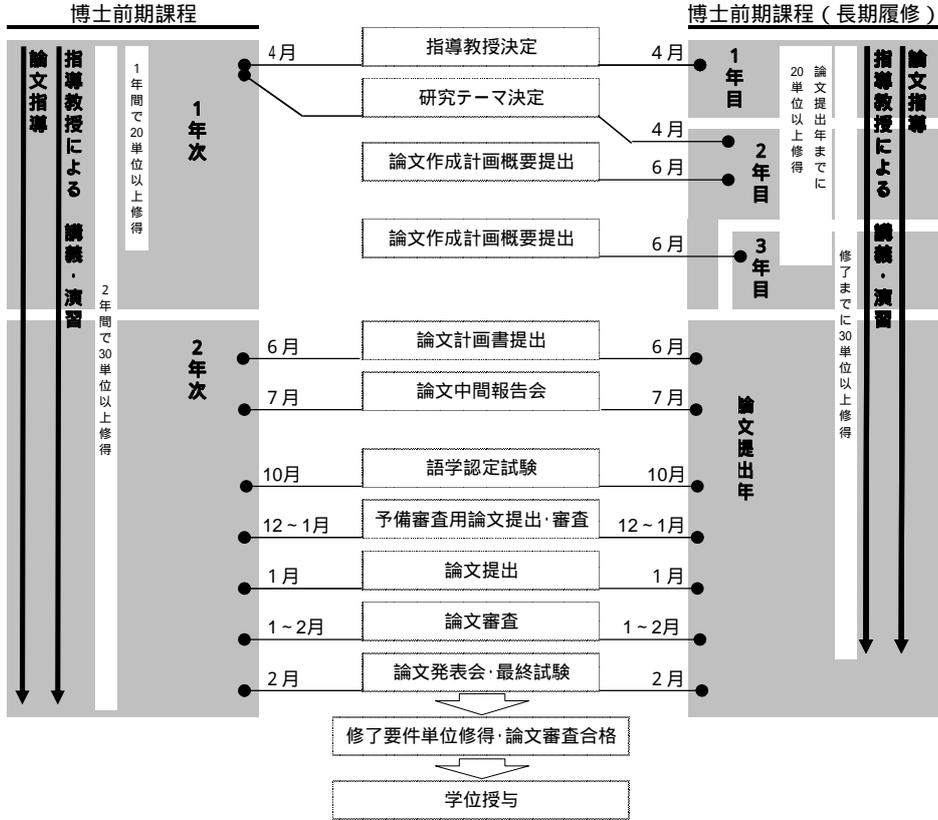
学 年	月	事 項	備 考	
1 年次	4 月	オリエンテーション		
		研究テーマ・指導教授の決定		
		履修登録	特別研究(4 単位)(指導教授) 講義科目(16 単位以上)	・指導教授の特別研究を含めて 20 単位以上を修得すること(論文提出要件)
2 年次	4 月	履修登録	特別研究(4 単位)(指導教授) 人間科学事例研究(2 単位) (人間科学研究領域の学生のみ必修) (指導教授) 講義科目	・2 年次修了までに 30 単位以上の修得が必要(修了要件) ・修了見込証明書発行基準: 2 年次に在学し 20 単位以上を修得していること
		6 月	修士論文計画書提出	論文タイトルや概要を決定する
		7 月	修士論文中間報告会	修士論文審査員(主査・副査)決定
	10 月	語学認定試験		
	12 月	予備審査用修士論文提出		
	12~ 1 月	修士論文予備審査		
	1 月	修士論文提出	作成要領参照	
	1 月~ 2 月	修士論文本審査		
	2 月	修士論文発表会・最終試験	主査・副査による口述試験	
	3 月	学位授与式		

早期修了者・長期履修者は、次ページ「学修フローチャート」を参照して下さい。

博士後期課程 学修の流れ

学 年	月	事 項	備 考	
1 年次	4 月	オリエンテーション		
		研究テーマ・指導教授の決定		
		履修登録	特殊研究(4 単位)(指導教授) その他の演習科目(指導教授)	
2 年次	4 月	履修登録	特殊研究(4 単位)(指導教授) その他の演習科目(指導教授)	
		10 月	博士論文中間報告会	
3 年次	4 月	履修登録	特殊研究(4 単位)(指導教授)	・3 年間で 20 単位以上修得する(指導教授の特殊研究 12 単位・指導教授の演習科目 8 単位を含む)(修了要件)
		6 月	博士論文計画書提出 語学認定試験	論文タイトルや概要を決定する 博士論文審査委員(主査・副査)の決定
	10 月	予備審査用博士論文提出		
	10 月~ 11 月	博士論文予備審査		
	11 月	博士論文提出	作成要領参照	
	12 月~ 2 月	博士論文本審査		
	2 月	博士論文公聴会・最終試験	主査・副査による口述試験	
3 月	学位授与式			

人間科学研究科 学修フローチャート



成績評価について

1 科目試験について

秀	90点以上	所期の目標を十分に達成し、特に秀でた成績を示している。	合格
優	80点以上	所期の目標を十分に達成し、優れた成績を示している。	合格
良	70点以上	不十分な点があるが、所期の目標をほぼ達成している。	合格
可	60点以上	所期の目標の最低限は満たしている。	合格
不可	60点未満	いくつかの重要な点において所期の目標を達成していない。	不合格

2 論文試験について

修士論文評価基準

当該研究領域における修士としての必要な知識を修得し、必要に応じて当該研究領域における問題を的確に把握し、解明する能力を身に付けているか。

申請された学位に対して研究テーマの設定が妥当なものであるか、論文作成に当たって、そのテーマを踏まえた明確な問題意識を有しているか。

論文の記述(本文、図、表、引用、文献リストなど)が適切かつ十分であり、明瞭にして一貫した論理構成を備え、明確かつ妥当な結論を得ているか。

設定したテーマの研究に際して、適切な研究方法(調査、実験、論証など)が採用され、論文ではそれに則った具体的かつ的確な分析或いは考察がなされているか。

外国語文献読解や外国における調査を踏まえた論文については、外国語の解釈、運用が的確であるか。

当該研究領域において、理論的あるいは実証的な見地から、一定レベル以上の水準に達しているか。

博士論文評価基準

研究者として自立して研究活動を行うに足る、又は高度の専門性が求められる社会の各分野において活躍しうる高度の研究能力と豊かな学識が身に付いているか。

適切なテーマ設定が行われ、明確な問題意識に基づき、的確な方法によって研究がなされているか。

学術論文として明確かつ緻密な論理性を備えるとともに、学術論文にふさわしい記述方法が選択され、かつ明瞭にして妥当な結論が得られているか。

当該研究領域において、論文は一定レベル以上の水準に達しているか。

当該研究分野において何らかの貢献をなしたか、又は新たな知見を付け加えることができたか。

当該研究領域において論文は独創的なレベルに到達しているか。